

山口厚子

(日本学術振興会特別研究員)

問題と目的 近年、家庭科教育学では「生きる力」育成の一環として意思決定能力の開発に関わる研究報告が多くなされ(角間・佐藤, 1999 他), 教科書にも意思決定に関する記述がみられるようになった(大修館, 1999)。こうした意思決定教育導入の背景にアメリカ家政学の影響があったことはいままでのないが, そこではどのような領域の意思決定に関する理論・研究が導入され, わが国はそこからどのような理論を導入し, 最近の研究動向につながっているか。既存文献から実態を把握し, 今後の家政学・家庭科教育学分野における意思決定研究の展開可能性を展望する。

方法 わが国の家政学・家庭科教育学分野において意思決定について記述がみられる諸著書(翻訳されたものも含む), 論文, およびそこで引用されていた外国文献をとりあげ, 意思決定に関する記述内容を整理していく。

結果と考察 アメリカの影響を受けたわが国の家庭経営学は, 主に意思決定行為をシステムとして構造的に捉える視点をもつ理論を導入してきたと思われる。一方アメリカ家政学・家庭科教育では, 実際の人間がどのようなプロセスを辿っているのかに着目し, 意思決定時の人間の心理的側面との関わりで捉える視点をもつ理論・研究結果の導入もみられ, 人間発達上の課題解決への応用が可能な意思決定教育へ繋がっていると思われた。